

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ●第39回●

### A級リーグ総括

今年もA級リーグが終わった。前回の世界戦に引き続き、今回のA級リーグも客観的な視点で振り返ってみよう。

### ●題数指定打ち

今回は何と言っても題数指定打ちの導入が目玉であった。先の世界戦で一応は見ているが、やはり大きな大会で打ってみるのは違う。これまでA級リーグで打たれたことがなかった浦月、花月を誰が最初に指定するか、ということがまずは注目された。私が仮先だったから迷わず指定したのだが、あいにくの仮後。実際には浦月が山口九段、花月が大角六段の指定であった。次に、上限が何題出るかも注目された。これについては田村七段が溪月七題指

定して最高記録となった。全45局が終って集計してみると、よく打たれた珠型ベスト3は、

① 水月 七局

② 丘月 五局

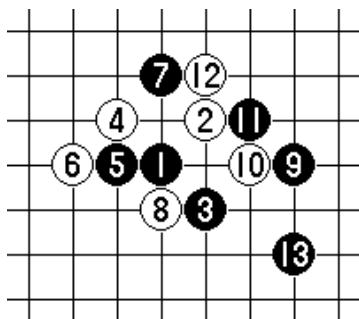
③ 銀月、金星、残月、峡月の三局

となった。水月は予想通りだったが、もう少し浦月、花月が出ると思っていたので少々予想外の結果となった。特徴的なのは、22珠型も登場したことで、題数指定打ちの意義が十分発揮された選択だったと言えるだろう。

また、二題打ちが二局しかなかったことも良かった。題数指定打ちの特徴である多題打ちを試そうという選手が多かったためだろう。水月や峡月・溪月は五題以上が標準なので、ヨンソルールではカバールしきれない珠型でもある。しばらくはこの傾向は続くであろう。

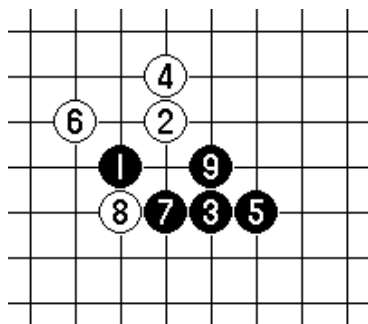
### ●注目の作戦

それでは、その中から注目の作戦をいくつかピックアップしてみよう。まずは、山口・田村戦。



浦月五題で始まったが、黒5の五題目はここだろう。白8までがっちり防いでいて悪くないと思うのだが、黒9から13が山口九段らしい鋭い速攻。右辺で勝てないともう勝つところがないと察知した勝負手である。白14から白も必死で防いだのだが、黒が右辺で押し切っている。これで黒が勝ちならば浦月五題は打てなくなるが、まだまだ白に防ぎの余地があるだろう。今

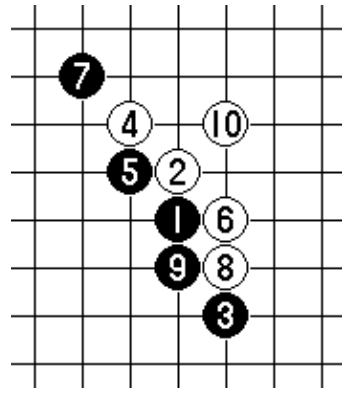
後の研究課題である。



続いて、河村・田村戦。水月で白4と打つのは題数指定打ちならではの強防で、今一番ホットな防ぎである。対して黒5は黒必勝の場所であることは事前の研究でわかっていた。しかし、田村君は黒5を指定して白6に防いできた。しかし、黒7に引かれるのをうっかりしたようで、黒9と固まっては白に防ぎがない以下15手で勝つことができた。この一戦などもまだまだ題数指定打ちが馴染んでいない証拠で、今後はこういった局は減っていくだ

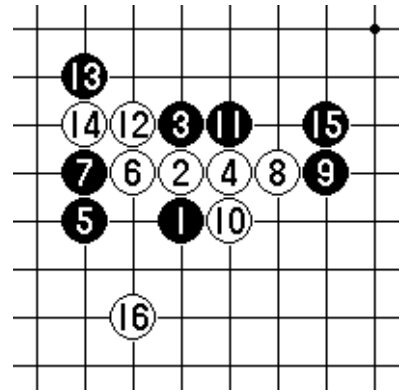
ろう。

続いている阪本・大角戦は、阪本七段が常識に挑戦した。



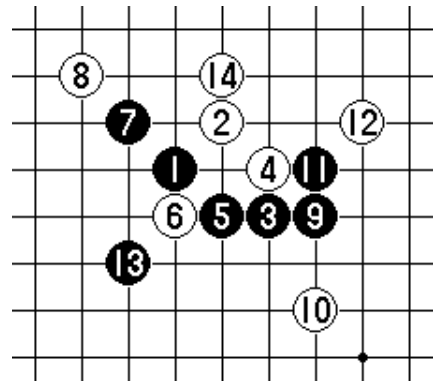
「山月黒三題は白必勝」という常識に立ち向かったのだが、白10まで打たれてやはり黒防ぐのは無理だった。

全勝の岡部七段に土がついた岡部・田村も注目の一戦となった。寒星からスタートしたが、黒5と打てば、決定戦の山口・河村戦の疎星と同じ形となる。黒5は疎星に戻すのもあるが、14と盤端違いに打つのもある。黒5の位置一つにいろいろな変化が



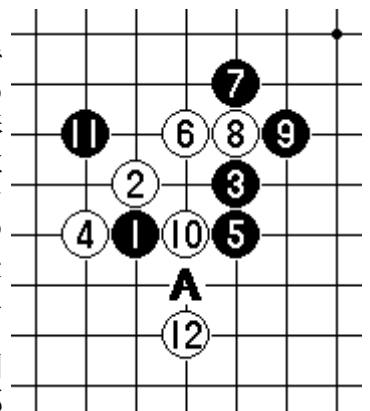
隠されている。黒15に対し白16と思いついた攻撃を仕掛けた田村七段が岡部七段の失着を誘ってA級初勝利を挙げた。

自分で打っておいて何だが、この形は白が少々苦しいと思っている。序盤で伸びた白8は、速攻なら効果を発揮するが、長期戦になると負担が大きくなる。もちろん、今後の研究が必要だが、白もどこかで変化した方がいいだろう。続いては、A級リーグ6回戦、0.5敗と1敗の対決となった大角・河村戦をご紹



介しよう。水月白4も一応仕込んできた作戦だが、中村氏によると黒勝ちらしい。しかし、研究していないとわからないし、今回の場合は多少の抜けがあっても作戦を仕掛けた方が勝つチャンスは多い。

黒11で負けたと思ったが、白12で忙しくなり、黒13には白14とけん制して、序盤に白が一本取った。以下黒に粘られたが、70手までで何とか勝つことができた。最後にご紹介するのは、飯尾・大角戦である。黒5



までの形はその後にも岡部・阪本戦で現れている(岡部・阪本戦は金星から)。黒11までは完全に打たせて取る作戦なのだが、白はまんまと黒の術中に嵌った。飯尾さんは白12と打って玉砕したのだが、作戦的には阪本さんが打ったAの方が興味深い。

今後は序盤だけではなく、中盤まで見据えた研究が必要となるだろう。また、かつては悪いとされた作戦がまた復活する可能性もある。そんなことより、決定戦で打つ作戦がなかなか決まらない。どうしよう？